令和元年度　第３回　子ども部会

日　　時：令和元年２月21日（金）　14：00～16：30　　場　所：龍郷町役場　２階会議室
参加者：県療育等支援事業（三環舎）・入所施設（希望の星、なのはな園）療育施設（あすなろ、愛かな、聖隷かがやき、ここ園、にこぴあ、のぞみ園、ヒマワリクラブ、ヒマワリ就学塾、ハートリハ龍郷）・相談支援事業所（つなぐ、のぞみ園）・保育（あすぱら保育園、秋名保育所、大勝保育所）・教育（鹿児島県子ども総合療育センター、大島教育事務所、奄美市教委）・学校（大島養護、龍郷小、秋名小、大勝小、名瀬小、龍南中、大島北高、奄美高校）医療（奄美中央病院、大島郡医師会病院）・行政（名瀬保健所、龍郷町保健福祉課、奄美市いきいき健康課）事務局（ぴあリンク奄美）

合計：44名

１．開会あいさつ（龍郷町保健福祉課　課長　満永たまよ氏）
２．参加者自己紹介
３．趣旨・資料説明・事業報告
　趣旨説明：ぴあリンク奄美　福﨑（　～14：25）
　※資料に基づいて説明
　　①奄美地区地域自立支援協議会及び子ども部会の体制について（ぴあリンク奄美　福﨑）
　　②保育所等訪問事業の説明（プリント配布）
　　③県療育等支援事業取り組み状況報告（チャレンジドサポート奄美　松野　恵子氏）
　・アセスメントツールとしてのMEPAを活用しての事例検討会を実施。
　・事業所が一堂に会して、取り組みを共有できたのは非常によかった。
　・アセスメントする力の大切さ

４．グループワーク
　本日のテーマ：
　　「こどもの支援における多職種連携」について地域での困り感を共有し、解決するためのできるだけ具体的な方法を考えましょう。
　　①多職種連携（教育、医療、福祉、行政等）こんなことで困った、こんな時はどうすればいい？
　　②こうすればうまくいく！？多職種連携。みんなでいい方法を考えよう。

　・県子ども総合療育センター　福山氏、黒木氏より
　福山氏：いろんな人たちが話って情報共有できているところがよい。薩摩川内市がよい。スクールソーシャルワーカーなども含めた、他の職種との連携を広げていってほしい。多職種連携をとろうとする場合、教育分野のハードルが高いことが多い。今回も参加している学校は少ない状況。逆に現場教員はもっとつながりを求めていることもあるため、もっとたくさんの学校からも参加できるように働きかけていってほしい。

　黒木氏：顔の見える連携を作っているのはよいと思う。横のつながりだけでなく、縦のつながりまでを見据えた検討も必要。また、現状として他機関につなぐときに情報が少ない、教育後の就労に

つなぐこと、卒業のそのあとの支援との連携も必要。情報をつなぐため、リレーファイル等を活用するとよい。

【各グループから】

◎困っていること、疑問に思っていること、知りたいこと

・支援学級を利用することが必要だと家族に伝える際の言葉かけの方法。
・保護者との信頼関係。（良かれと思い伝えたことが、マイナスに受け止められることがあった。）
・地域の方々（家族も含め）への障がい理解の拡大。
・「なんとなく気になる」段階で相談していいのか。
・教育機関、保育機関などの連携ができていない。一貫性のある支援ができていない。
・困り感を持っている人を相談機関につなぐときどこに、どのようにつなげばよいかなどの情報を整理してほしい。
・幼、保、小、中、高の情報共有、連携が難しい。特に中から高への情報が上がってこないように感じている。
・瀬戸内などは、幼児期で、施設入所の為親元を離れる事例もある。
・学校、家庭、支援者の立場や対応の違いがあり、子どもが戸惑うこともある。
・高校に進学してくる普通学級在籍の子どもさんでも、得意教科、不得意教科の差が激しいうえに、中学に質問しても、情報があまりない状況。
・家庭の問題が増えてきている（ひとり親、生活困窮、など福祉につながる問題が多い）
・高校入学後の連携がどのようになっているか心配。
・発達障がいの診断について問い合わせがあるが、どこでどのような診断ができるのか情報が欲しい。
・年度で人が変わることで、連携が途切れることがある。
・中学校で不登校などになった場合、どのように連携をとったらよいか分からない。

◎こうあってほしい。こんなものがあればいい。

・保護者から子どものできないことを聴くことが多いが、母親などが気軽に相談できる場所も必要。
・子どもにとって、このお手伝いが必要だということを、お母さんたちに伝えることも大切。地域の方への理解。困っているのは子どもということを理解して、子どもの困りに対応してもらいたい。
・リレーファイルをもっと活用してもらいたい。
・中央病院では小児連絡協議会でフローチャートを作成している。困っている人が相談しやすくなるようなフローチャートがあったらありがたい。
・目に見える評価で、スタッフでも共有しやすく、家族への説明もしやすいツールが欲しい。
・成長してからの支援より、早期療育することが必要。
・現状を知るキーパーソンの存在を中心とした、たて、よこのつながりが必要。

◎こうしている。こうすればよい。

・基幹相談支援センター（ぴあリンク奄美）を活用したらよい。
・要保護対策協議会の活用や相談支援専門員の活用
・子どもの相談先が一目でわかる連絡票が作成され、各家庭にあるとよい。
・支援者がみんなで集える場（今日のような場所）は大切。

・行政、学校、支援者がおんなじ気持ちで関わることが大切。宿題なども３者がしっかり話し合って、本人に合わせた対応を心掛ける。
・声掛けは、できるだけプラスの言葉を使う。
・きらきらリレーファイルを活用し、相談支援専門員や要対協と密に連絡をとって、良い支援につなげる。
・年に１回、放課後等デイを含む学童関係者との連絡会を実施している。声掛けさえあればどの学校でも実施可能ではないか。（夏休みなら、より連絡、対応しやすい）
・保護者同意のもとであれば、学校に遠慮なく連絡してもよい。
・保育所等訪問支援事業なども利用してもらえば、より学校に介入しやすいのでは。
・幼、保、小連絡会を年２回実施することで進捗状況の確認や支援の方向性を修正することもできている。（関係職種も招集するとよい）
・要対協の個別会議の進め方を参考に、行政主導で関係機関内での情報共有、役割分担、次回日程等確認し、進捗状況を管理していくとよい。

５．その他

・「そだちサポート」プロジェクトについて（別紙参照）

・子ども部会運営委員会（３月 19 日）